



未名天留学
学语言 · 办留学 · 一站解决

物理

解答

2015年度入試

【学部（学科）】

理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、基礎工学部

【入試名】

前期日程

【試験日】

2月25日

過去問ライブラリーは(株)旺文社が刊行する「全国大学入試問題正解」に掲載している問題、解答・解説を転載しています。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は(株)旺文社またはその情報提供者に帰属します。

また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

本書に掲載している著作物のうち、★印を付したものは著作権法第67条の2第1項の規定により文化庁長官に裁定申請を行った上で利用しています。

© Obunsha Co.,Ltd

1505900401

◆裁定申請日 【2012年】 5/1,/5/18, 【2013年】 7/8, 【2014年】 3/17,8/12

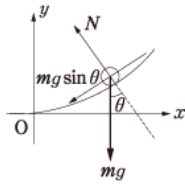


电话: 400-6321-400/13601043104(微信) QQ: 1925811302

地址: 北京市海淀区海淀路北大资源东楼 1433 室

1 物 (放物面上の微小振動と衝突, 単振動, 弾性衝突, 非弾性衝突)

解答 I. 問1 接線方向の力 F は, x が増える方向を正として,
 $F = -mg \sin \theta$



$y = ax^2$ より, 接線の傾きは
 $\frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{a(x + \Delta x)^2 - ax^2}{\Delta x} \doteq 2ax$

θ が小さいから, $\tan \theta \doteq \sin \theta \doteq \theta$
 よって,

$$F = -mg \sin \theta \doteq -mg \tan \theta = -mg \frac{\Delta y}{\Delta x} = -2magx$$

この式と $F = -mbx$ と比較して
 $b = 2ag$

問2 $F = -mbx$ より, 単振動の角振動数 ω は
 $\omega^2 = b \quad \therefore \omega = \sqrt{b}$

よって, 求める周期 T は

$$T = \frac{2\pi}{\omega} = \frac{2\pi}{\sqrt{b}}$$

II. 問3 小球1, 小球2ともに, 原点を中心とする単振動をする。小球1, 2を同時に放すから, $\frac{1}{4}$ 周期後に, 原点 O に達して, 最初の衝突をする。よって, 答は $x = 0$

問4 振動中心での小球1, 2の速度 v, v' を考えると, x が増える方向を正として

$$v = -x_0\omega = -x_0\sqrt{b}$$

いることになる。よって, $|x|$ が最大になるときの x の値は,

$$(小球1) \quad x = x_0 \quad (小球2) \quad x = -x_0$$

III. 問9 小球は, いずれも単振動で近似できる運動をする。衝突直前の2つの小球の力学的エネルギーの和 E_0 は, $mb = k$ とおいて

$$E_0 = 2 \left\{ \frac{1}{2} kx_s^2 + \frac{1}{2} mv^2 \right\} = 2 \times \frac{1}{2} kx_0^2$$

である。衝突直後は, 両球ともに速さが (ev) に変わるから2つの小球の力学的エネルギーの和 E_1 は

$$E_1 = 2 \left\{ \frac{1}{2} kx_s^2 + \frac{1}{2} m(ev)^2 \right\}$$

となる。両式より v を消去して,

$$E_1 = kx_s^2 + e^2 k(x_0^2 - x_s^2) \\ = mb(e^2 x_0^2 + (1 - e^2)x_s^2)$$

$0 < e < 1$ であるから, $x_s = 0$ のとき E_1 は最小となる。

問10 単振動の振幅の変化を考える。衝突ごとに速さが e 倍になるが, 角振動数は一定であることと

$$(衝突時の速さ) = (\text{振幅}) \times (\text{角振動数})$$

の関係から, 振幅も, 衝突ごとに e 倍になることがわかる。よって, 求める距離 L は

$$L = x_0 + ex_0 \times 2 + e^2 x_0 \times 2 + e^3 x_0 \times 2 \\ = (1 + 2e + 2e^2 + 2e^3)x_0$$

$$v' = -cx_0\omega = -cx_0\sqrt{b}$$

(別解) 力学的エネルギー保存則より, 向きも考慮して

$$v = -\sqrt{2gy} = -\sqrt{2gax_0^2} = -x_0\sqrt{2ga} = -x_0\sqrt{b}$$

$$v' = -\sqrt{2gy} = -\sqrt{2ga(cx_0)^2} = -cx_0\sqrt{2ga} = -cx_0\sqrt{b}$$

問5 運動量保存則

$$m_1 W = m_1 v + m_2 cv \quad \dots\dots\dots ①$$

力学的エネルギー保存則

$$\frac{1}{2} m_1 W^2 = \frac{1}{2} m_1 v^2 + \frac{1}{2} m_2 (cv)^2 \quad \dots\dots\dots ②$$

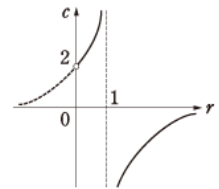
問6 問5の①, ②式より, W を消去すると

$$c r v^2 \{2 + c(r - 1)\} = 0$$

$c r v^2 \neq 0, r \neq 1, r > 0$ より

$$c = -\frac{2}{r - 1} \quad \dots\dots\dots ③$$

c, r の関係をグラフにすると, 右図のようになるから, c の値のとりうる範囲は,



$$c < 0, 2 < c$$

問7 $c = -1$ を③へ代入して

$$-1 = -\frac{2}{r - 1} \quad \therefore r = 3$$

これらを①へ代入して

$$W = (1 + rc)v = -2v$$

問8 運動量保存則と力学的エネルギー保存則が成り立つ。この場合, 1回目と3回目の衝突の両球の物理状況は同じになる。つまり2回目と3回目の衝突の間に, 両球は, 最初のスタート位置 $(x_0, -x_0)$ に戻って

2 物 (ゲルマニウムラジオの構造, コイルのインダクタンス, コンデンサーの接続と容量, 交流とRLC並列回路, インピーダンス, 同調, 分離) (難)

解答 問1 コイルの単位長さあたりの巻き数は $\frac{N}{l}$ [1/m] であるから, ソレノイドの内部の境界 H [A/m] は, 電流を I [A] として

$$H = \frac{N}{l} I$$

磁束密度 B [T], 磁束 Φ [Wb] は

$$B = \mu H = \mu \frac{N}{l} I$$

$$\therefore \Phi = BS = \mu \frac{N}{l} \pi a^2 I$$

よって, $I \rightarrow (I + \Delta I)$ で $\Phi \rightarrow (\Phi + \Delta \Phi)$ に変化したとき

$$\Delta \Phi = \mu \frac{N}{l} \pi a^2 \Delta I$$

電磁誘導の法則より, 誘導起電力 V [V] は

$$V = -N \frac{\Delta \Phi}{\Delta t} = -\mu \frac{N^2}{l} \pi a^2 \frac{\Delta I}{\Delta t}$$

自己インダクタンス L [H] は

$$V = -L \frac{\Delta I}{\Delta t}$$

両式を比較して

$$L = \frac{\pi \mu a^2 N^2}{l} \text{ [H]}$$

問2 重なる部分の極板の面積が, bx [m²] であるから, 電気容量 C_1 [F] は,



$$C_1 = \frac{\varepsilon b x}{d} \text{ [F]}$$

問3 極板間が $(2M-1)$ [個] できるので, C_1 のコンデンサーが $(2M-1)$ 個並列に接続されていることになる。求める容量 C [F] は

$$C = (2M-1)C_1 \text{ [F]}$$

問4 交流電圧を $V_2 \sin \omega t$ とすれば, 抵抗, コイル, コンデンサーを流れる電流をそれぞれ I_R, I_L, I_C として,

$$I_R = \frac{V_2}{R} \sin \omega t$$

$$I_L = \frac{V_2}{\omega_1 L} \sin\left(\omega t - \frac{\pi}{2}\right)$$

$$I_C = \omega_1 C V_2 \sin\left(\omega t + \frac{\pi}{2}\right)$$

問5 $V_2 = I_2 Z$ より, Z が(a)最大するとき V_2 が最大となる。これは

$$\omega_1 C - \frac{1}{\omega_1 L} = 0 \quad \therefore \omega_1^2 = \frac{1}{CL}$$

のときである。このとき

$$Z = R \text{ } [\Omega], \quad I_2 = \frac{V_2}{R} \text{ [A]}$$

問6 問5の $\omega_1^2 = \frac{1}{CL}$ より

$$C = \frac{1}{\omega_1^2 L} \text{ [F]}$$

問7 $V_2 = I_2 Z$ より $\frac{V_2}{I_2} = Z$

ω が ω_2 および ω_3 のとき, $\frac{V_2}{I_2} \rightarrow \frac{1}{2} \frac{V_2}{I_2}$ となるから,

$$\frac{Z}{2} = \frac{1}{\sqrt{\frac{1}{R^2} + \left(\omega C - \frac{1}{\omega L}\right)^2}}, \quad Z = R$$

の ω は ω_2 および ω_3 を満たす。

上式を整理して, ω の2次方程式をつくると

$$\frac{R^2}{4} = \frac{1}{\frac{1}{R^2} + \left(\omega C - \frac{1}{\omega L}\right)^2}$$

$$\left(\omega C - \frac{1}{\omega L}\right)^2 = \frac{3}{R^2}$$

$$\omega C - \frac{1}{\omega L} = \pm \frac{\sqrt{3}}{R}$$

$$\therefore CRL\omega^2 \pm \sqrt{3}L\omega - R = 0$$

ω について解くと

$$\omega = \frac{\sqrt{3}L \pm \sqrt{3L^2 + 4CR^2L}}{2CRL}, \quad -\frac{\sqrt{3}L \pm \sqrt{3L^2 + 4CR^2L}}{2CRL}$$

$\omega_2 > 0, \omega_3 > 0, \omega_3 < \omega_2$ より

$$\omega_2 = \frac{\sqrt{3}L + \sqrt{3L^2 + 4CR^2L}}{2CRL}, \quad \omega_3 = \frac{-\sqrt{3}L + \sqrt{3L^2 + 4CR^2L}}{2CRL}$$

よって, $\Delta\omega$ は

$$\Delta\omega = \omega_2 - \omega_3 = \frac{\sqrt{3}}{CR}$$

問8 混信を避けるためには, ω の変化に対して,

$\frac{V_2}{I_2}$ の値ができるだけ速やかに小さくなればよいから,

$\Delta\omega$ が小さいほうがよい。 (⇒(b))



3 物 (シリンダー内の気体の変化と熱力学, ボイルの法則, ボイル・シャルルの法則, 気体の仕事, 内部エネルギー, 熱力学第1法則)

研究 問4 気体と外気の圧力差は, ピストン上の液体の体積に比例する。問7 気体の圧力は, 体積変化に対して直線的に変化する。

解答 I. 問1 ピストンに作用する力のつり合いより

$$p_1 S = p_0 S + Mg \quad \therefore p_1 = p_0 + \frac{Mg}{S}$$

熱平衡に達し, 気体と外気の温度が等しいから, ボイルの法則より

$$p_1 V_1 = p_0 V_0$$

$$\therefore V_1 = \frac{p_0}{p_1} V_0 = \frac{p_0 S}{p_0 S + Mg} V_0$$

問2 求める温度を T_1 とすると, ボイル・シャルルの法則より

$$\frac{p_1 V_0}{T_1} = \frac{p_0 V_0}{T_0}$$

$$\therefore T_1 = \frac{p_1}{p_0} T_0 = \frac{p_0 S + Mg}{p_0 S} T_0$$

問3 気体の物質量を n モル, 気体定数を R とすると, 状態方程式より

$$p_1 V_0 = nRT_1, \quad p_0 V_0 = nRT_0$$

熱力学第1法則より, 求める熱量 Q_1 は, 内部エネルギーの変化 ΔU と気体のした仕事 W の和になるから

$$Q_1 = \Delta U + W$$

$$= \frac{3}{2} nR(T_1 - T_0) + 0$$

$$= \frac{3}{2} (p_1 V_0 - p_0 V_0) = \frac{3}{2} \frac{Mg}{S} V_0 = \frac{3MgV_0}{2S}$$

II. 問4 気体の体積が V_2 のときの圧力を p_2 とすると, ボイルの法則より

$$p_2 V_2 = p_0 V_0 \quad \therefore p_2 = \frac{V_0}{V_2} p_0 \quad \dots\dots ①$$

気体と外気の圧力差は, ピストン上の液体の体積に比例するから, 求める圧力を p とすると

$$\frac{p - p_0}{p_2 - p_0} = \frac{V_0 - V}{V_0 - V_2} \quad \dots\dots ②$$

①, ②から p_2 を消去して

$$p - p_0 = \frac{V_0 - V}{V_2} p_0$$

$$\therefore p = \frac{V_0 + V_2 - V}{V_2} p_0$$

問5 求める温度を T とすると

$$\frac{pV}{T} = \frac{p_0 V_0}{T_0}$$

$$\therefore T = \frac{pV}{p_0 V_0} T_0 = \frac{V(V_0 + V_2 - V)}{V_0 V_2} T_0$$

問6 問5の結果より

$$T = \frac{T_0}{V_0 V_2} \{-V^2 + (V_0 + V_2)V\}$$

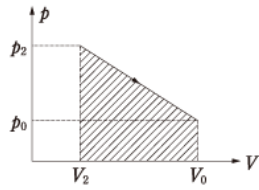
$$= \frac{T_0}{V_0 V_2} \left\{ -\left(V - \frac{V_0 + V_2}{2}\right)^2 + \frac{(V_0 + V_2)^2}{4} \right\}$$

よって, $V = \frac{V_0 + V_2}{2}$ のとき, 温度の最高値 T_{\max} は



$$T_{\max} = \frac{(V_0 + V_2)^2}{4V_0V_2} T_0$$

問7 液体の重さによる圧力が、気体の体積変化に対して p - V 図のように直線的に変化するから、気体のした仕事 W は、 p - V 図の面積より



$$\begin{aligned} W &= \frac{p_2 + p_0}{2} (V_0 - V_2) \\ &= \frac{V_0^2 - V_2^2}{2V_2} p_0 \end{aligned}$$

求める熱量 Q は、熱力学第1法則より

$$\begin{aligned} Q &= \Delta U + W \\ &= \frac{3}{2} nR(T_0 - T_0) + \frac{V_0^2 - V_2^2}{2V_2} p_0 \\ &= \frac{p_0(V_0 - V_2)(V_0 + V_2)}{2V_2} \end{aligned}$$



電話: 400-6321-400/13601043104(微信) QQ: 1925811302

地址: 北京市海淀区海淀路北大资源东楼 1433 室